

## 平成22年診療報酬改定 精神療養病棟の評価

- 精神療養病棟入院料について、療養病棟入院基本料等と異なり、患者の状態像によらず一律の評価となっていることを見直し、重症度に応じた加算を新設する。

精神療養病棟入院料(1日につき)
1,090点



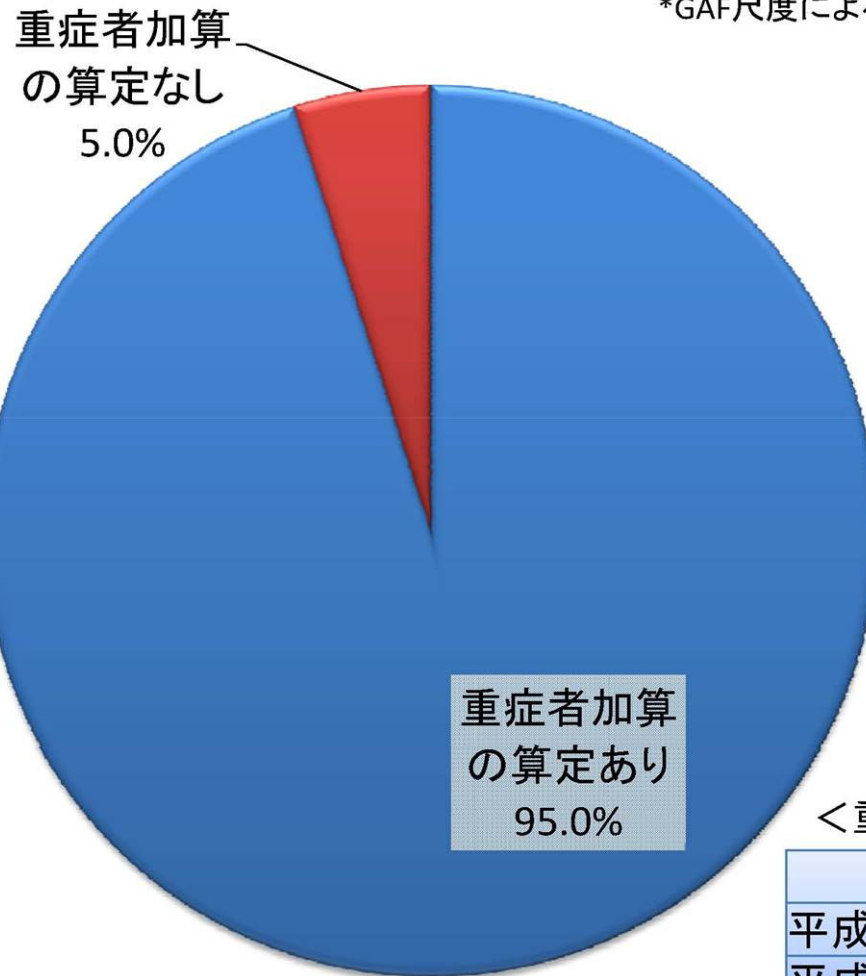
精神療養病棟入院料(1日につき)
1,050点
①新 重症者加算(1日につき) 40点

〔算定要件〕

重症者加算: 当該患者のGAFスコアを毎日評価し、そのスコアが40以下であること

# 精神療養病棟入院料算定回数に対する 重症者加算\*の算定割合

\*GAF尺度による判定が40以下の患者について1日40点を加算



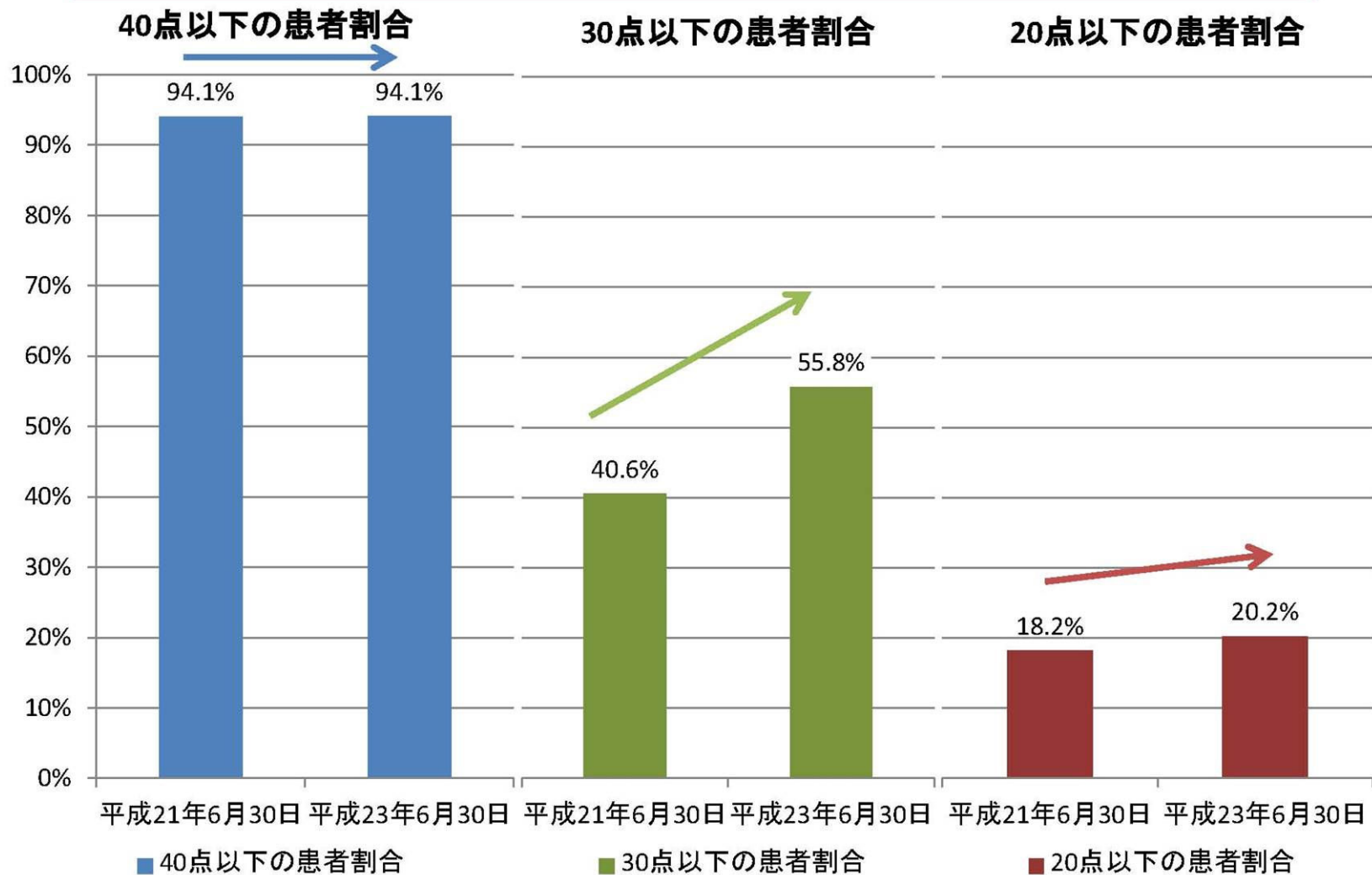
## <精神療養病棟入院料算定回数>

	算定回数
精神療養病棟入院料	2,515,462
(再掲)重症者加算	2,390,511

## <重症者加算導入前後でのGAF平均値の変化>

	GAF平均値
平成21年6月30日時点の入院患者	29.2
平成23年6月30日時点の入院患者	28.4

## 精神療養病棟入院患者におけるGAF値の推移

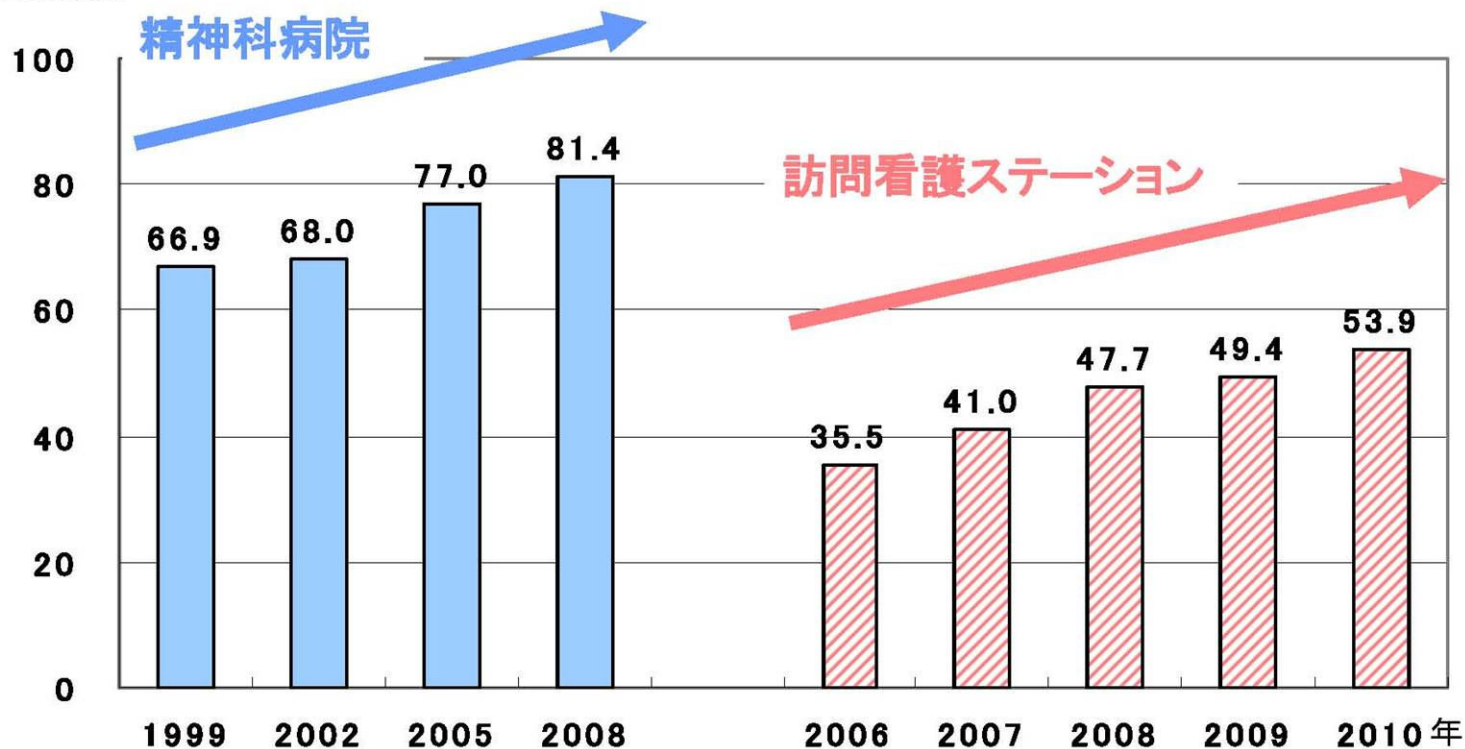


出典：平成23年度検証調査

## 精神疾患患者に訪問看護を提供している 精神科医療機関および訪問看護ステーション数の推移

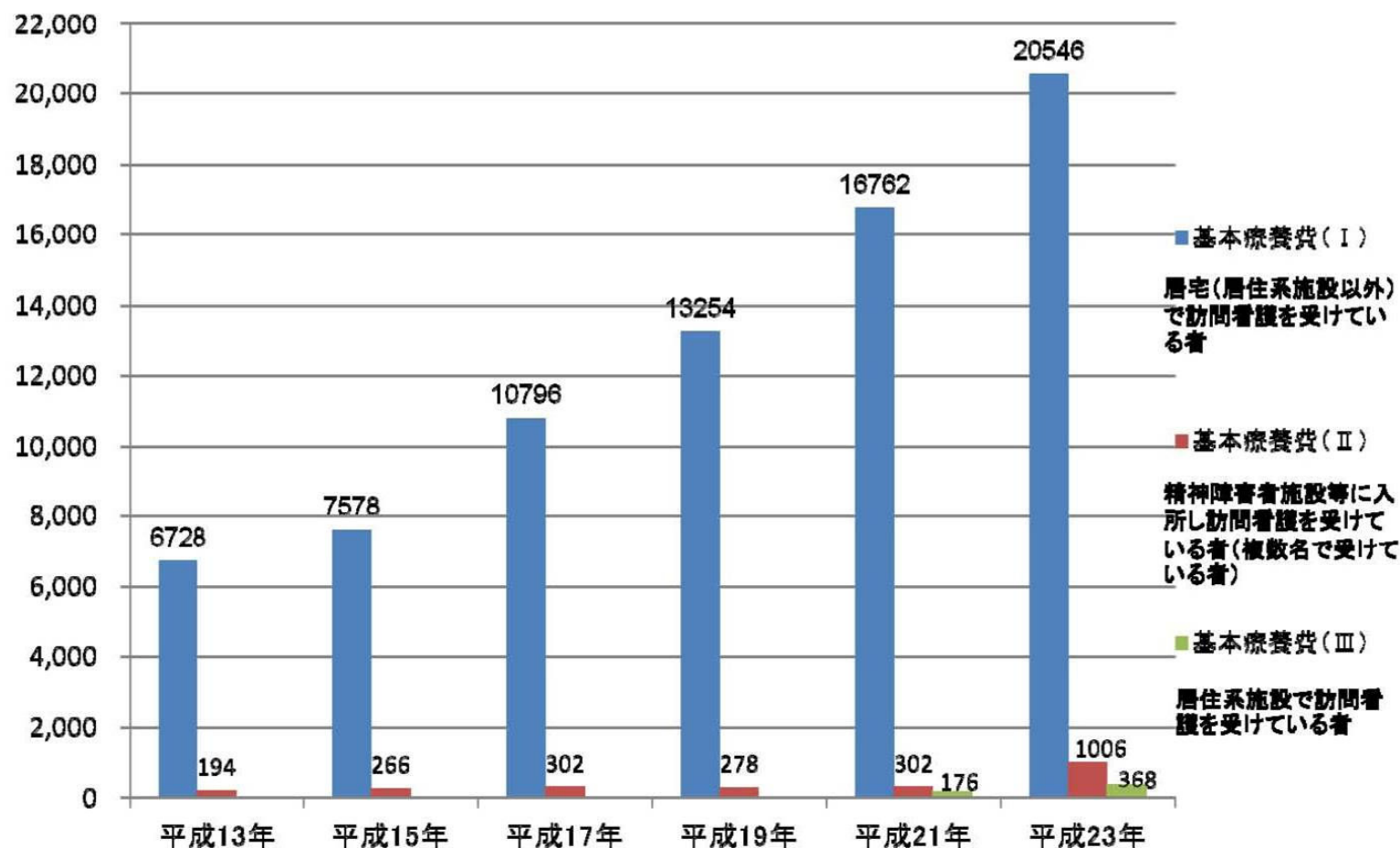
○精神疾患患者に訪問看護を実施している機関は、精神科病院の約8割、  
訪問看護ステーションの約半数であり、増加傾向である。

実施割合(%)



医療施設調査、厚生労働省推進事業調査研究より

## 傷病分類「精神及び行動の障害」の 訪問看護基本療養費別利用者数の推移（訪問看護ステーション）

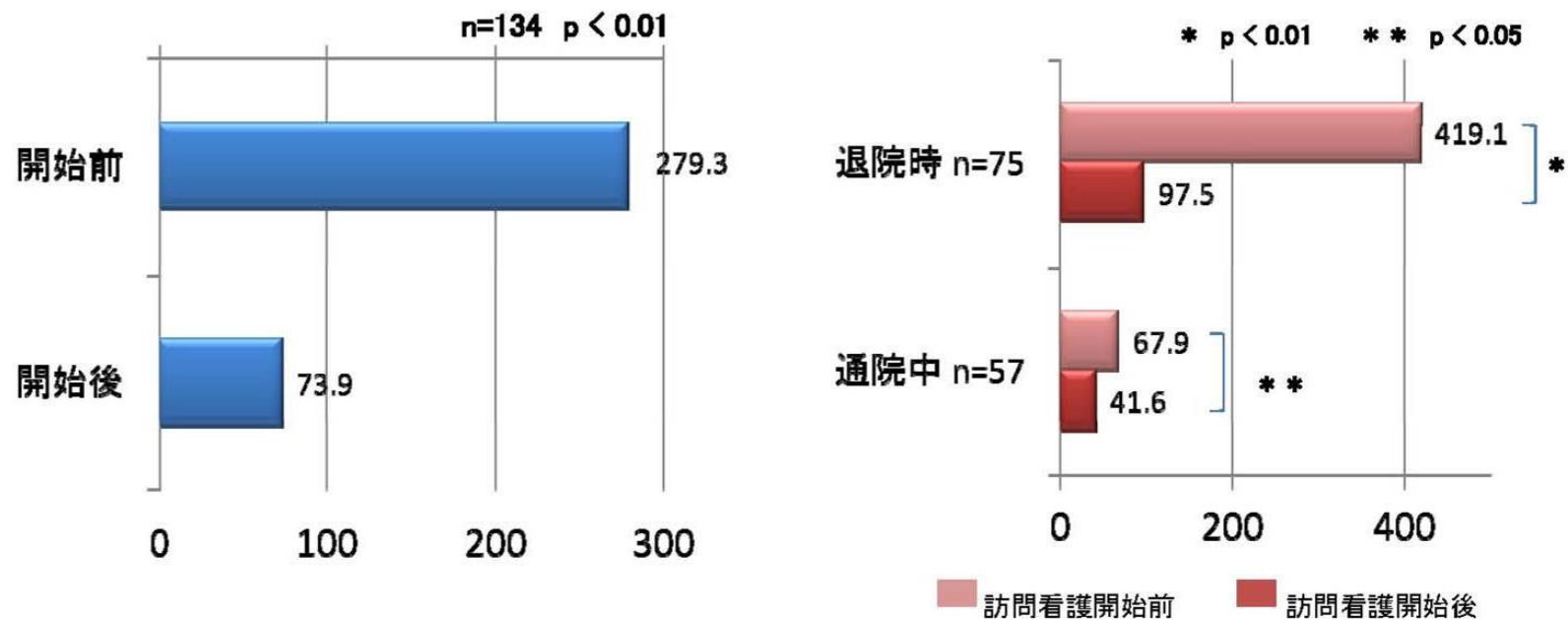


※基本療養費（Ⅲ）のみ平成21年から調査

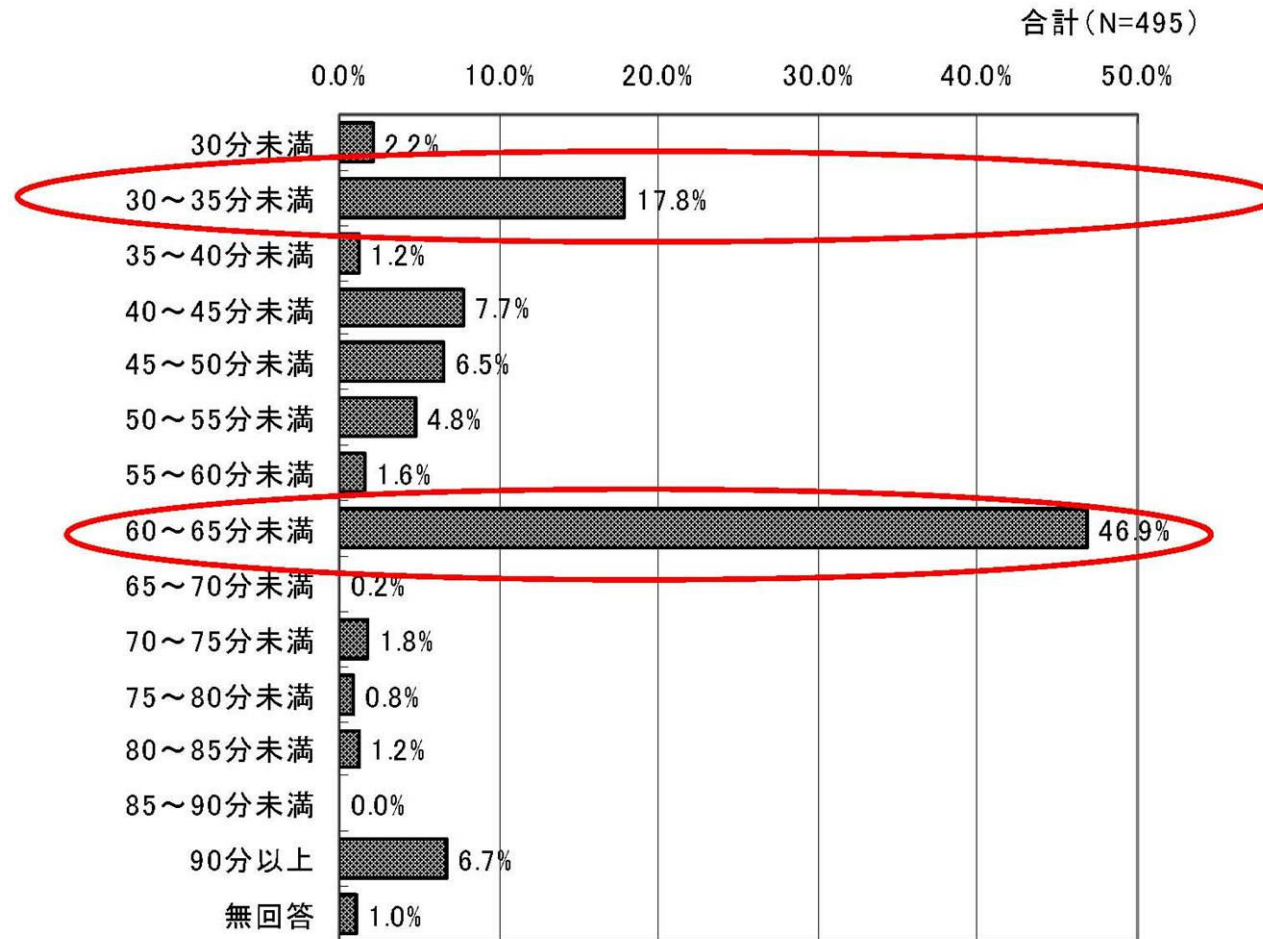
保険局医療課調べ

## 精神疾患患者への訪問看護の効果 —訪問看護開始前後2年間の精神科総入院日数—

- 訪問看護の利用により精神科病棟への総入院日数が減少
- 訪問看護開始前2年間の平均279.3日から訪問看護開始後2年間では、74.9日へと約4分の1に短縮し、約200日在宅療養期間が延長した(左図)。
- また退院を契機に訪問看護を開始した退院時群と通院中に訪問看護を開始した通院中群それぞれの訪問看護開始前後2年間の平均在院日数は、両群とも有意に減少していた(右図)。

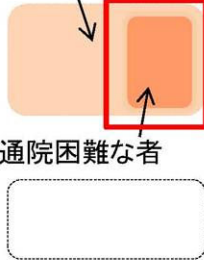
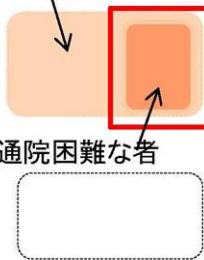
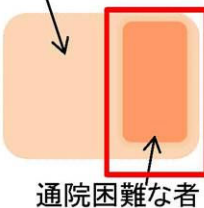
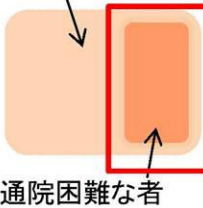
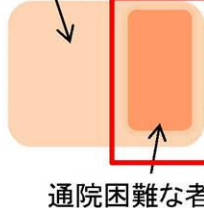
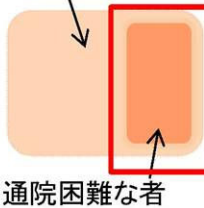


# 統合失調症を有する人への訪問看護における滞在時間 (訪問看護ステーションからの訪問)



・2007年度 厚生労働省障害者保健福祉推進事業(障害者自立支援調査研究プロジェクト)「精神障害者の地域生活支援を推進するための精神科訪問看護ケア技術の標準化と教育およびサービス提供体制のあり方の検討」全国訪問看護事業協会、主任研究者: 萱間真美 報告書より抜粋

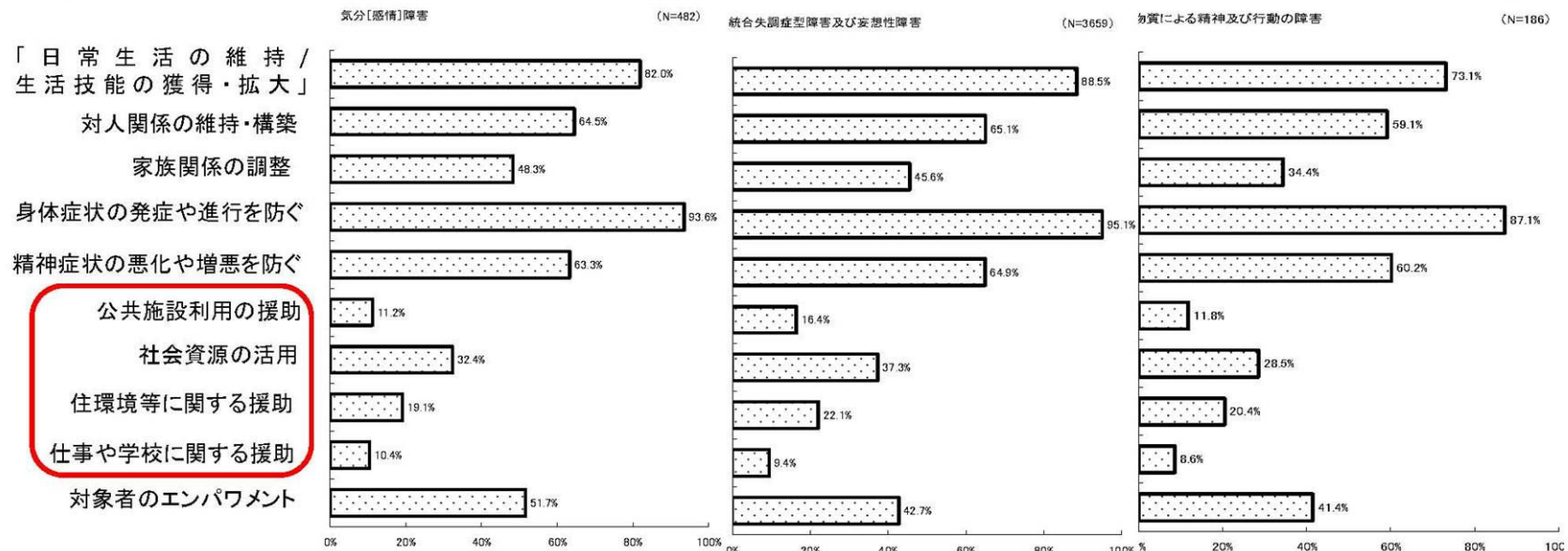
# 訪問看護ステーションと医療機関との基本料の比較

	医療機関		訪問看護ステーション	
	精神科を標榜する医療機関の対象者		訪問看護基本療養費(Ⅰ) 【居宅】	訪問看護基本療養費(Ⅱ) 【精神障害者施設】
<b>③</b> 入院中の患者 以外: 通院困難  精神科  <b>②</b> 家族  <b>①</b> 提供者: 精神保 健福祉士  施設要件: 相当の経験	精神科訪問看護・指導料(Ⅰ) 【居宅】	精神科訪問看護・指導料(Ⅱ) 【精神障害者施設】	入院中の患者以外 	入所*している <b>複数の者</b> 
	入院中の患者以外 (個別) + 家族	入所*している 複数の者 + 介護を担当 する者	保健師、看護師、理学 療法士、作業療法士、 又は准看護師等	通院困難な者  保健師、看護師、作業療法士
	提供者 保健師、看護師、作業療法士又は精神保健福祉士	提供者 保健師、看護師、作業療法士又は精神保健福祉士	要施設	要施設 精神障害を有する者に対する看護に相当の経験を有する保健師、看護師又は作業療法士
精神科以外	在宅患者訪問看護・指導料 【居宅】	同一建物居住者訪問看護・指導料 【同一建物】	訪問看護基本療養費(Ⅰ) 【居宅】	訪問看護基本療養費(Ⅲ) 【同一建物】
	入院中の患者以外  通院困難な者	入院中の患者以外  通院困難な者	入院中の患者以外  通院困難な者	入院中の患者以外  通院困難な者



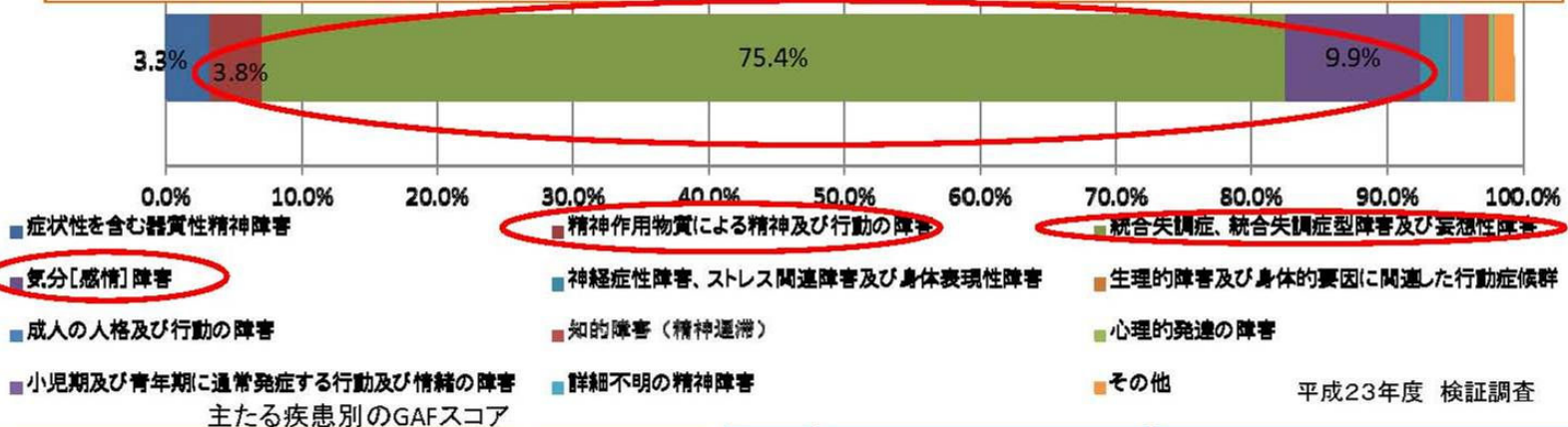
# ① 主たる疾患別のケア内容

ケア内容については、疾患別に大きな違いはなく、「精神症状の悪化や増悪を防ぐ」「身体症状の発症や進行を防ぐ」「日常生活の維持/生活技能の獲得・拡大」の割合が大きい。また、「公共施設利用の援助」、「社会資源の活用」、「住環境等に関する援助」、「仕事や学校に関する援助」など、精神・身体的なケアだけではなく、多様なニーズに対応している。



# 訪問看護を活用している患者の主たる疾患の状況

統合失調症、統合失調型障害及び妄想性障害が75.4%、気分（感情）障害が9.9%、精神作用物質による精神及び行動の障害が3.8%で89.1%を占める。



主たる疾患別のGAFスコア

疾患	GAFスコア
症状性を含む器質性精神障害	52.63
精神作用物質による精神及び行動の障害	59.69
統合失調症、統合失調型障害及び妄想性障害	53.68
気分〔感情〕障害	57.36
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	57.28
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	37.94
成人の人格及び行動の障害	55.78
知的障害（精神遅滞）	49.68
心理的発達の障害	48.99
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	-
詳細不明の精神障害	-
その他	52.86

コード	重症度	機能のレベル
51-60	中等度の症状、(例:感情が平板的で、会話がまわりくどい、時に、パニック発作がある)。	社会的、職業的、または学校の機能における中等度の障害(例:友達が少しかいない、仲間や仕事の同僚との葛藤)。
41-50	重大な症状(例:自殺念慮、強迫的儀式が重症、しよつちゅう万引する)。	社会的、職業的、または学校の機能において何か重大な障害(友達がいない、仕事が続かない)。
31-40	現実検討かコミュニケーションにいくらかの欠陥(例:会話は時々非論理的、あいまい、または関係性がなくなる)。	仕事や学校、家族関係、判断、思考または気分など多くの面での重大な欠陥(例:抑うつ的な男が友人を避け家族を無視し、仕事ができない。子どもが年下の子どもを殴り、家庭では反抗的であり、学校では勉強ができない)。

平成23年度 検証調査

## ② 訪問滞在時間の長短と利用者特性との関連 (訪問看護ステーションからの訪問, N=495)

●訪問滞在時間が長い利用者群で、同居者がいる、合併症がある、社会機能が低い(GAF得点が低い)割合が高かった。

	短時間群 (60分未満) (n=207)	長時間群 (60分以上) (n=284)	検定
同居者あり	97(50.3)	182(65.7)	$\chi^2=11.248^*$
合併症あり	93(44.9)	154(54.2)	$\chi^2=4.140^*$
GAF	56.5(18.0)	50.1(19.1)	t= -3.751**

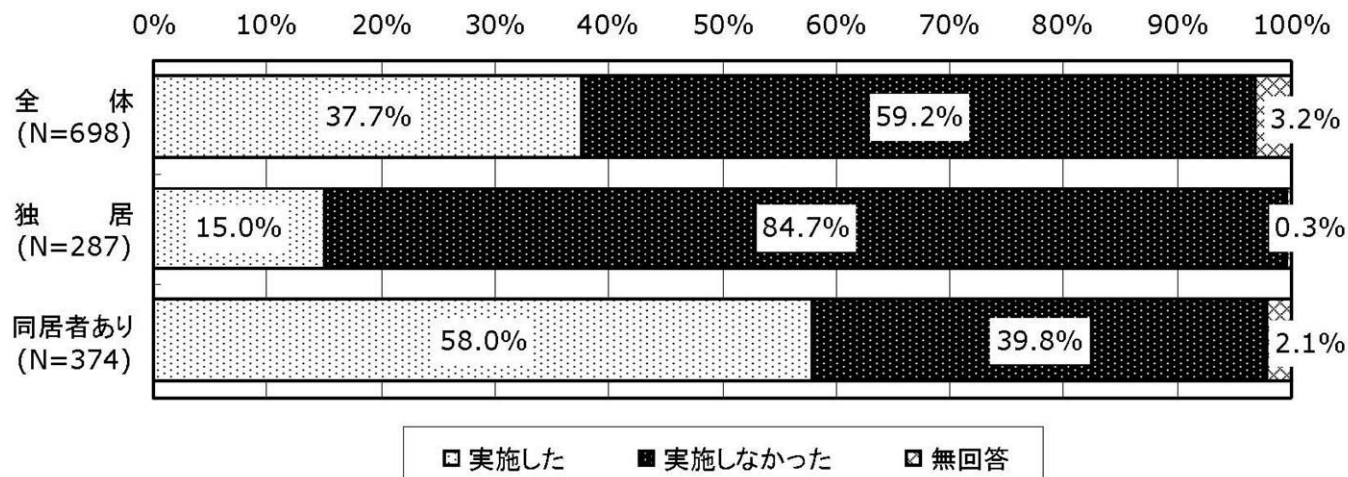
欠損値は除く。\*\*p<0.01, \*p<0.05

連続変数は平均値(SD)、カテゴリカル変数はケース数(グループ内の%)を示す。

連続変数はt検定、カテゴリカル変数は $\chi^2$ 検定の結果を示す。

・2007年度 厚生労働省障害者保健福祉推進事業(障害者自立支援調査研究プロジェクト)「精神障害者の地域生活支援を推進するための精神科訪問看護ケア技術の標準化と教育およびサービス提供体制のあり方の検討」全国訪問看護事業協会、主任研究者: 萱間真美

## ② 精神科訪問看護における家族支援の実施率



支援内容	利用者数	割合
家族から話を聞き、苦労や困難をねぎらった	171人	65.0%
家族に対して、本人との日常的な接し方についてアドバイスした	136人	51.7%
家族に対して、本人の病状や治療、回復の見通し、利用できる社会資源について説明をした	108人	41.1%
本人と家族の関係を調整した（互いの気持ちを代弁する、など）	103人	39.2%
家族の状況が変化したため、本人や家族間の調整をした	29人	11.0%
家族が利用できる社会資源を紹介した	25人	9.5%
家族が休養をとりたいときに、レスパイトのために訪問した	2人	0.8%
その他	34人	12.9%
無回答	6人	2.3%

平成22年度 厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業)「新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究」  
 (研究代表者 安西信雄)分担研究 精神医療の現状把握と精神科訪問看護からの医療政策(研究分担者 董間真美)

### ③ 訪問看護の利用の有無と入院状況等

訪問看護を受けていない外来通院のみの利用者と訪問看護利用者で2年間の入院状況の比較を行った。訪問看護利用群が平均入院日数が少ない傾向にあったが、有意差はなかった。

#### 【2年間の入院状況】

	訪問看護ステーション群(N=41)	訪問看護病院群(N=76)	外来群(N=9)	検定
2年間の入院の有無	19(46.3%)	34(44.7%)	5(55.6%)	
平均入院日数	111.7(198.4)	51.4(102.8)	144.6(213.2)	
入院があった人の平均入院回数	平均(SD) 1.7(0.9)	平均(SD) 1.6(0.8)	平均(SD) 1.4(0.5)	F=0.25
平均入院日数	222.3(210.8)	143.9(116.4)	282.4(203.2)	F=2.90